

日 時	令和8年8月19日（水） 11:00～12:00 第3回経営会議
出席者	平原副市長、佐藤副市長、鈴木副市長、松浦副市長、技監、政策経営・国際戦略局長、行財政局長、総務局長、脱炭素・GREEN×EXPO推進局長、市民局長、港南区長
欠席者	政策経営・国際戦略局政策調整担当理事
議 題	2 第10期 横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画・認知症施策推進計画（よこはまポジティブエイジング計画）の策定について【健康福祉局】
議 事 要 旨	【論点】 ○令和9年度から11年度の3年間を計画期間とする、第10期横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画・認知症施策推進計画（よこはまポジティブエイジング計画）を策定する。 ○計画策定にあたり、 ・高齢者施策の方向性 ・介護保険サービスの見込量（施設整備方針等含む） ・第1号被保険者（65歳以上）の介護保険料 等を決定する。 ○中期計画を上位計画として連動させた計画とする。 【説明要旨】 ・第10期計画において、本市の高齢者施策の方向性を定める。中期計画に掲げた「市民の実感」を評価軸とした進捗管理を行うため、同計画では新たにロジックモデルを活用して施策体系を整理するとともに、「目指すべき状態」と「アウトカム指標」も設定し、進捗状況を適時適切に検証する。 ・2040年に向けた高齢化の一層の進展に伴い、高齢単独世帯や認知症高齢者のさらなる増加が見込まれる。「頼れる身寄りがいない高齢者等への支援」「自立支援・重度化防止の取組の強化」「特別養護老人ホームへの入所が必要な方の支援の充実」「認知症医療体制の強化」などに取り組むことで、高齢者の暮らしの安心やQOLの向上を図るとともに、「介護給付費の増加抑制等」に向けた取組を推進する。 ・今後パブリックコメントを実施し、令和9年2月に原案を公表、市会での議論を経て3月に計画書を公表する予定。 【主な意見等】 ・要介護状態になる前のタイミングに短期集中型で支援を行う「リエイブルメント」は家族の立場からも重要な取組と考えるため、具体的な仕組みづくりを期待する。 ・試行錯誤しつつも中期計画との連動を意識してロジックモデルを作成したことは評価できる。 ・ロジックモデルの内容については、引き続き政策経営・国際戦略局との協議を重ね、深化を図ること。

	【結論】 <u>主な意見を踏まえつつ、局案について了承。</u>
--	---